

2017年度 センター試験 地学（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：30問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 昨年同様、必答問題 4 題、選択問題 2 題から1題選択の計 5 題構成であり、解答数に変化は見られなかった。必答問題において「宇宙分野」の配点が増加した分、「大気と海洋」の配点が減少した。それにより「宇宙分野」を得意とした受験生に有利に働いたであろう。問題レベルに関しては、単に知識を問う問題が増加したため全体的に易しくなったと思われる。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	地球 A-プレート運動 B-重力と内部構造 C-内部の熱源	24点	教科書でよく見られる図やグラフを基に解答を導く問題形式であり、標準的な問題である。教科書の図を基に過去問などで演習を行った受験生には易しく感じられたであろう。
第2問	地球の歴史と地層および岩石 A-大気組成と生物の歴史 B-地質図 C-マグマ	20点	昨年度と比べ全般的に取り組みやすい問題となっている。Bの地質図を扱う問題は、昨年と比較して単純な地質構造が問われていたため、取り組みやすかったように思われる。他の知識問題に関しては、標準的な問題であり、解答しやすかったであろう。
第3問	大気と海洋 A-気圧 B-海流	17点	図表から考察する問題であり、教科書でよく見られる図表が掲載されていたので、教科書中心に学習した受験生は抵抗なく取り組めたであろう。また計算問題に関しては、問題文を指数関数的に扱えるかどうかポイントになったであろう。
第4問	宇宙 A-太陽と地球 B-銀河系と銀河	27点	宇宙に関する知識が問われた問題。昨年に比べて大幅に配点が上がったものの、単純に知識を問う問題が多くを占めたため、受験生は解答しやすかったであろう。計算問題も煩雑ではなかったので、抵抗なく解けたと思われる。
第5問 選択	リソスフェアと磁気圏 A-リソスフェア B-磁気圏	12点	Bの知識問題は教科書でよく見られる図に関する問題で、得点しやすかったであろう。またAの計算問題に関しては、図から数値を拾い上げてから立式するという経験が必要な問題であり、過去問などを活用し学習していた受験生には易しく感じられたであろう。
第6問 選択	大気と海洋 A-地球の気温の鉛直分布 B-海洋	12点	Aは典型的なグラフの読み取り問題であり、しっかりと演習問題に取り組んできた受験生は対応できたであろう。またBの知識問題は素直な問題なので、確実に得点したい。